

今後の歯科技工業界の展望

片岡 均

日本では2018年、高齢者(65歳以上)の人口(3,557人)は、総人口(12,042万人)の約29.5%でおよそ3.5人に1人が65歳以上となっています。老年人口指数は今後も上昇を続け、2025年には生産年齢人口(15~64歳人口)のほぼ2人で1人の高齢者を支えることになると見込まれています。

増大する高齢者の欠損補綴を補う歯科技工士の仕事では、歯科技工士としての志をしっかりと持ったうえで、インプラント技工やデンチャー技工を十分熟知することが益々重要になってきています。

歯科技工士にとって補綴装置を製作すること、それは日々技術を研鑽し努力することです。そして、勿論それが我々 歯科技工士の使命でもあります。

歯科技工士に「気持ちの緩み」や「物事の本質」を理解できていなかったらどんなにCAD/CAM機器等が進歩したところで、それを扱う歯科技工士の学術的な知識と技術が無ければうまくいきません。機械がうまいのではなくそれを扱う歯科技工士がしっかりと本質をとらえて初めてうまくいくのです。

国は「働き方改革」を進める中、歯科技工士の労働環境の改善は一向に前進していないのが現実であります。私達がゆとりある歯科技工ライフを送ることが、しっかりと国民目線で考えることのできる歯科医療現場になるのではないのでしょうか？そこで、はじめて患者さんからの信頼が得られるのだと思います。

そのことを踏まえたくて、今後の歯科技工業界の在り方を皆さまと共に考えたいと思います。

是非お付き合いください。